

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Associations between broader autism phenotype and dietary intake: A cross-sectional study (Japan Environment & Children's Study)

和文タイトル:

妊婦における自閉症傾向特性と栄養摂取との関連性について

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Autism and Developmental Disorders

年: 2020 月: 8

巻: 50

頁: 2698-2709

筆頭著者名: 廣川空美

所属UC名: 大阪UC

目的:

妊娠中の葉酸やビタミンD、オメガ-3や6脂肪酸などの栄養素が不足している場合、幼児の自閉スペクトラム症のリスクが高まる可能性が報告されている。本研究の目的は、母親の自閉症傾向特性BAPと食品摂取および栄養摂取との関連を検証することである。

方法:

JECSのデータを用い、103,099名の妊婦のうち、BAP特性データや食品摂取および栄養摂取のデータがそろっている92,011名を分析対象者とした。妊婦の自閉症傾向特性を測定するため日本語版AQ-J-10を用い、FFQを用いて主要な食品摂取および栄養摂取状況を推定した。

結果:

自閉症傾向が強いとされる高得点群の妊婦は、野菜や果物をはじめ、豆類、いも類、魚介類などの食品摂取が他の低得点群よりも少なく、逆に砂糖類の摂取が多いことが示された。栄養摂取でも高得点群は他の低得点群よりもマグネシウム、セレンウム、葉酸、ビタミンC、ビタミンD、ビタミンE、オメガ-3脂肪酸の摂取量が少ないことが示された。

考察:(研究の限界を含める)

本研究の対象者では発達障害の既往を報告した母親が0.1%と少なかったため、解析に含まれているが、除外した場合も結果は変化しなかった。また、発達障害は自己報告に基づいており、さらに多い可能性がある。BAPや食物摂取、栄養摂取のデータは尺度に基づいているため、結果については慎重に解釈する必要がある。

結論:

自閉症傾向の強い母親に対しての妊娠中の栄養摂取に関して、適切な介入が必要かもしれない。